

令和4年度 事業計画(案)

社会福祉法人いわせ長寿会

特別養護老人ホームいわせ長寿苑

ショートステイいわせ長寿苑

デイサービスいわせ長寿苑

訪問介護いわせ長寿苑

訪問看護いわせ長寿苑

いわせ長寿苑居宅介護支援事業所

I 運営理念

「共に生き わかちあえる毎日」

いわせ長寿会は、「共に生き わかちあえる毎日」を運営理念として、利用者、家族、地域、職員を4つの柱として、それらが一体となって家庭的な雰囲気の中で生活が送られるよう開放的な運営を目指していきます。お一人おひとりの人権を尊重し、長寿を共に喜ぶことのできる施設として役職員一同力を併せて努力してまいります。

II 運営方針等について

1、基本方針

新型コロナウイルス感染症の影響により昨年同様当初予定された計画も中止が相次ぎ、法人全体として感染予防の1点に集中する1年となってしまいました。

その中で現行3ヶ年計画の最終年を迎えるにあたり、新たな日常の想像の基、職員確保を優先事項としながら各事業における事業収支の確立を図っていきます。利用者とその家族とこの地域の方々にとって笑顔で送れる日常生活の維持と確保の為に顧客の視点を決して外すことなく果敢に取り組んでまいります。

2、利用者処遇の向上・充実（特別養護老人ホーム）

いわせ長寿苑では、自宅に近い環境の中で利用者・職員が共同生活を送り、一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていく事をサポートしながら「暮らしの継続」を図っています。

いわせ長寿苑では、24時間シートという個人ごとに作成するツールを用いて利用者処遇の向上と充実を図っており、この24時間シートの作成にあたっては他職種間の協働によって定期的に見直しを図り、常に各利用者の身体状況や生活状況に合ったサービス提供が行えるように取り組んでいます。また、利用者処遇に欠かせない利用

者の情報共有においては、iPad を活用し常に最新の情報が確認、共有しながら介護記録等の負担軽減を図り ICT（情報処理・通信技術）導入活用で業務効率化を図っています。

更に介護職員が介護業務に専念できる様「生活支援員」の導入を行い洗濯や掃除・茶碗洗いやシーツ交換等を行って頂き介護職員の負担軽減に繋げています。

（１）食事

日々の生活の中で一番の楽しみである食事については、「長く口から食べ続けられる事」を目的に食べる姿勢（ポジショニング）・口の中や喉の状況（オーラルヘルスアセスメント）・KT バランスシートの取り組みを柱に、家庭的な雰囲気で食事が楽しめるような雰囲気作りにも配慮した食事提供を心掛けていきます。

①栄養マネジメントの実践を踏まえ、定期的な嗜好調査や食事状況のアセスメントを行い、個々人の最適な栄養ケアを目指し、栄養状態・健康状態の改善に取り組みながら生活の質（QOL）の向上を目指していきます。

②経口維持加算を実施継続し、利用者の方々へ口から食べる支援の充実の為に他職種間による意見交換の充実や食事介助等における技術的向上を目指して取り組んで参ります。

③食事前の口腔体操や歯科医院のご協力のもと定期的な口腔ケアや口腔指導を、よりおいしく食事が頂ける体づくりやおいしさを感じ取れる口内環境を整えていきます。

④厨房をはじめ食品の衛生管理には万全を期し、0-157やノロウイルスをはじめとする食中毒の予防を徹底し、その防止策として職員教育や衛生意識の向上に努め、委託業者には、定期的に開催している栄養管理委員会に出席いただき、よりよい食事の提供と食の安全に努めていけるよう現場職員との意見交換を活発に実践して参ります。

（２）入浴

ユニット内個浴は温泉入浴でアルカリ性単純泉です。神経痛や疲労回復、健康増進等に適応し身体の清潔と心身のリラックスの場としてゆっくり快適に入浴していただけます。また、利用者の状況に応じた入浴方法の実施（機械浴・個浴）により安心・安全な入浴提供に努めていきます。

（３）排せつ

自立した日常生活を送る上で排泄コントロールは必要不可欠なもので排泄の支援は生活全般の支援にもつながります。１人ひとりの適切なタイミングで排泄ケアを実施する事で尊厳のある生活の実現につなげます。

（４）身体拘束廃止の取組

身体拘束は、人権尊重の観点からも生活の質を損なうことになることを職員全員が共有し、身体拘束ゼロを目指します。ただし、利用者の様態により、生命または身体を保護するためやむを得ない場合や、緊急やむを得ない場合を除き、必要と判断した場合は、家族の承諾を得て一時的に行動制限を行います。毎月「身体拘束ゼロ対策運営委員会」を開催し、廃止の方法を探りながら更に虐待防止に向けた取り組みとして職員教育システムの構築や言葉の暴力等をなくす事等を実践して参ります。

（５）健康管理

利用者が安心して生活ができるよう健康管理に努め、疾病の予防、早期発見に努めます。

- ①利用者の心身の状態を把握し、嘱託医師の指示に従いながら適切な処置を行い速やかにご家族への状態報告を行って本人、家族の意向を尊重して対応してい

きます。

②年々増加傾向である終末期ケアについては、看取り指針に基づき、利用者、家族、嘱託医と十分な合意形成を図り適切に対応して参ります。

(6) 防災・防犯計画

火災もしくはその他の災害が発生した場合に被害を最小限にとどめるため、日頃から防災意識を高め、有事に備えるために毎月1回訓練を行って行き、火災以外にも水害や不審者侵入等を含めた訓練計画を実施して参ります。

3、働きやすい職場環境づくり

(1) 人材の育成

職員資質の向上を図るため、職員研修計画を策定し、職場内研修の充実を図るとともに、ICT等の活用によるオンラインや配信での研修についても積極的に参加を推進し、資格取得支援制度をはじめ、各種支援制度の積極的活用を推進して参ります。また、介護職員初任者研修で職員が講師を務めることを通じて、教育指導能力とスキルの向上を目指して参ります。

(2) 人材の量的確保と質的向上です

人材の確保についてはこれまでも重要施策となっています。年間計画に基づきリクルート活動や広報活動等に力を注いで参ります。又懸念される介護職員不足に対し拡充した奨学金制度活用での外国人介護福祉士の受け入れや高等学校や専門学校、一般の方等への奨学金制度普及を推進してまいります。

(3) 職員処遇の改善

これまでトータル人事制度の実施や介護職員処遇改善交付金等において職員処

遇の改善に努めて参りましたが、一昨年新人事制度をスタートさせ各個人には共通の評価項目と技術評価で目標を明確にすると共に、部門・委員会・SDS（自己啓発活動）等を織り交ぜて、給与形態の見える化を図ると共に、目標を明確にする事でのモチベーション向上に繋げ、職場環境の充実と併せて職員処遇の向上に努めて参ります。

4、災害に強い施設づくり

（１）BCP計画

あの東日本大震災から11年目を迎える直前に福島県沖地震により新たな被害を被る中、今後の激甚災害や、新型コロナウイルス、水害や不審者侵入時等に際し、利用者、職員の安全確保に努めながら事業活動の継続を図るためにBCP（事業継続計画）計画に基づき、ポータブル発電機や利用者、職員、避難者の1週間分の非常食等を備蓄するとともに、定期的なBCP（事業継続計画）の見直しを図りながら実効性を確保し充実させて参ります。

（２）災害時施設相互応援協定の締結

福島県老人福祉施設協議会会員施設間において、被災していない施設が被災施設入所者等の受入、または応援職員を派遣する等相互の援助を円滑に行う為の協定に参加しております。又地域における役割として須賀川市との協定により災害時における福祉避難所としての役割を担い、災害により被災を受けた方の受入れや災害に関わらず緊急性の高い方の受入れ等も随時行って参ります。

5、3カ年戦略計画づくり

事業の継続と経営理念の実現を図るため、いわせ長寿会3カ年計画を策定いたします。計画策定にあたっては「人・物・金・情報・時間・技術」を機軸として、社会福

社法人としての社会的使命・役割と法人理念の実現において持続性と蓋然性ある計画策定を行い実施して参ります。本年度はこの3ヶ年計画の最終年でもあり、法人サステイナビリティ＝事業の持続性を高めていきます。

6、地域連携、地域貢献

昨年度は新型コロナウイルスの影響により各種開催の中止が相次ぎましたが、「待つのではなく赴く事」を念頭に、社会福祉法人公益的取組として、これまでの福祉避難所としての整備に加え、施設玄関前でのフリーマーケットの開催や地域行事（悠久まつり）参加出店による高齢者疑似体験、3行政区での出前講座、施設廊下壁面を利用した地域開放ミュージアム、一般講座としての介護教室の開催等、感染対策や開催方法を十分に検討した上で、出来る限り継続して取組んで参ります。

7、広報活動

いわせ長寿苑の活動を広く知ってもらうために、施設と利用者、家族とのかけはしとなる広報誌「四季」を例年通り4回発行して参ります。又ホームページの更なる活用により情報の発信力を高めながら、社会・地域との双方向コミュニケーションの充実の為に活動して参ります。

令和4年度 事業所別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 学ぶ意欲を大切にする働きやすい職場環境作り。
- (2) ユニットそれぞれの個性を活かしたサービスの提供と暮らしの継続。

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	難易度	結果/達成率
財務	①	年間平均稼働率 97% の維持	感染症蔓延防止及びへのアプローチ	同様の症状の感染症蔓延 2ユニット以下	M	
	②	空床期間を減らす	実態調査に行ける職員を増やす	上期：2名以上 下期：3名以上	H	
顧客	①	その人らしい暮らしの継続	利用者のADLの維持	バーセルインデックス利得特養 平均1以上 1回/半年	M	
業務	①	特色のあるユニット作り	ユニット独自の取り組みを行い日々の楽しみに繋げる。	各ユニット 2 回以上実施 上期：1 回 下期：1 回	M	
	②	業務負担の均等化	各種研修講師や説明会等で幅広い分野に対応できる職員を増やす	出前講座メニュー、説明会資料の見直し、更新 上期：2名 下期：2名	H	
	③	急変時の対応強化	利用者急変時、他職種と連携し迅速に対応できる	確認テスト実施。介護職員平均 80 点以上。 上期：1 回 下期：1 回	M	
人材	①	スキルアップする機会の提供	イーケアラボの使用率向上	課題の周知 1 回/月	M	
	②	ネガティブな 3K を感じない職場環境作り	人材の定着 「危険・汚い・きつい」 「希望・期待・感謝・感動・感激・可能性・快感」	上期：ネガティブ 3K 洗い出し 下期：改善 50%以上	H	

令和4年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑

やまざくら・まつ

1. 目 標

(1) 利用者に喜ばれるケア、家族に安心をもたらすケアを行う。

(2) 職員個々のスキルアップを行い、内部だけでなく外部への対応ができるようにする。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	ユニット稼働率 10 名の維持	利用者の状態変化の早期発見と健康管理を行い、入院者を減らす。	感染症、職員要因での骨折、誤嚥性肺炎での入院者 0/月件	M	
	②	介護事故件数軽減	介護事故を減らし、安全な暮らしを提供する。	事故件数前年度比 50%減 1 件以下/2 ヶ月	H	
顧 客	①	看取りケアの充実	看取りの知識向上と看取りケアの充実を図る。	・看取りに関する苦情 0 件 ・看取りケア後は必ずグリーフケアを行なう。	M	
	②	ICT を使った余暇活動	オンライン配信でのレクリエーションを行う。	2 回/月	L	
業 務	①	畑を使った余暇活動	ユニットの中庭に畑を作り、野菜の栽培を利用者と共に行う。	・上期畑の作成 ・下期収穫祭を行う ・ Vitalityindex 低下 2 名以下/半年	M	
	②	外部対応の出来る人材の育成	出前講座や各種研修会、説明会等の対応が出来る職員を育成する。	出前講座等への参加 1 名以上、もしくは資料の見直し、作成。	L	
人 材	①	介護技術、知識の向上	・ユニット会議後、15 分～30 分程度の勉強会を行う。	2 ヶ月に 1 回	M	
	②					

令和4年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 もみじ・けやき

1. 目 標

- (1) 利用者1人1人に寄り添うケアを行う事で安心して心豊かに生活できる居場所作り。
(2) 自立支援や重度化防止の為にケアの標準化（統一）を行う。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	ユニット稼働率 10名の維持	感染症の蔓延防止	ガウンテクニックやゾーニング等のシミュレーション確認 1回/1カ月	M	
	②	暮らしの継続	入居者のADLの維持・向上	各入居者に合わせたレクやリハ 2回/1週間の提供	M	
顧 客	①	食の満足度の向上	食の楽しみを持ってもらい QOLの向上を図る	毎月食に関する 行事の開催 12回/年以上	L	
	②	働き方改革	有給取得率の向上	8回/年以上	M	
業 務	①	職場環境作り	3K（きつい・汚い・危険） の改善	上期：職員への 聞き取り・見える化/全員 下期：改善案を まとめ、対応策 の構築	H	
	②	人材の育成	様々な状況に応じた対応が 出来る職員の育成	受診対応・出前 講座等の指導が 出来る職員を各 1名以上育成	H	
人 材	①	職員のスキルアップ	急変時、看取りが誰であっ ても不安なくできるユニッ ト独自のマニュアルの作成	上期：職員への 不安聞き取り・ 精査 下期：作成	M	
	②					

令和4年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 りんどう・ぼたん

1. 目 標

(1) 質の高いケアの提供と安全・安心した暮らしの継続。

(2) 働きやすく、働きがいのある職場環境作り

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	ユニット稼働 10 名の維持	健康管理の徹底と状態変化時の早期発見、早期対応。感染症予防の徹底。	①感染症の同症状に罹患する入居者2名以内 ②居室対応等の各種感染症発症時のシミュレーションを1回/月実施	M	
	②	看取りケアの充実	看取り加算取得についての知識の向上と看取りケアの充実を図る。	①看取り加算についての勉強会の開催2回/年。 ②職員のグリーフケアの実施。看取りケア後毎回。 ③看取りに関する苦情0件。	M	
顧 客	①	入居者の ADL 低下防止と維持	入居者ひとりひとりの ADL 低下防止のため、アクティビティの提案と実施。	上期：一人一人の状態に合わせたアクティビティの提案。下期：アクティビティの実施(入居者一人あたり毎月5回以上)	M	
	②	業務内容の標準化と平準化	業務負担の偏りを精査し、業務の標準化と平準化を図る。	上期：業務分担表の作成。 下期：1回/2ヵ月の見直し。	M	
業 務	①	環境整備を実施し、事故を防止する	入居者の居室内や使用物品の点検、フロアや介護人室の環境を整備し、職員・入居者のケガや事故を防ぐ。	上期：点検チェック表の作成。 下期：1回/月の点検実施、改善。	L	
	②	情報収集、伝達力とコミュニケーションスキルの向上	担当者会議や家族、多職種への連絡、受診対応時に正確な情報を伝えることが出来るようにコミュニケーションスキルを向上させる。	上期：事例作成後、シミュレーション実施。 8名 下期：担当者会議、家族連絡、受診対応のいずれかを実践。 8名	H	
人 材	①	役割や責任の明確化	仕事に関する役割や責任を明確化することで責任性や強調性を養い、働きやすい職場環境を作る。	上期：役割分担するための仕事の洗い出し 下期：洗い出し後、分担表の作成と実践	L	
	②					

令和4年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 やまゆり・すみれ

1. 目 標

- (1) 感染対策を徹底した上でユニットの個性を引き出し満足度の向上を図る。
(2) 学ぶ意欲を大切にして職員一人一人のスキルアップを図る。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	ユニット稼働 10 名の維持	・ 感染症蔓延、重度化を防ぐ ・ 誤嚥性肺炎の予防	ゾーニングや感染症発生時のシミュレーション勉強会 1 回/月	M	
	②	その人らしい暮らしの継続	利用者の ADL 維持	バーセルインデックス平均利得 1 以上 1 回/半年	M	
顧 客	①	リスクコントロール	転倒、転落事故を減らす	事例のピックアップ、改善策の検討・実施 1 回/月以上	M	
	②	各委員会の内容把握	担当委員会以外の取り組みも把握し協力できる。	委員会発信の提出物や評価等、期限内に実施 100%	L	
業 務	①	余暇活動の充実	植物の栽培を通して余暇活動の充実と認知症へのアプローチを考える。	Vitalityindex 低下 2 名以下/半年 収穫祭実施 2 回/年	M	
	②	人材育成	自己学習を通してスキルアップを図る。	資料提出 or 知識を伝える機会への参加 2 つ以上/1 人	H	
人 材	①	働きやすい職場環境作り	職員一人一人が委員会や受診、行事の予定を把握し協力できる。	1 週間分/行事毎	M	
	②					

令和4年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 やまがら

1. 目 標

- (1) 一人一人の笑顔を大切に、楽しみを持って生活が送れる。
(2) ケアや目的意識の統一を行い、チームワークの向上を図る。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	稼働率維持	健康管理に気を付け、状態変化時の早期発見早期対応をする。	体調変化時や急変時の対応方法をシーン別学ぶ 12回/年	M	
	②	充実した余暇活動	毎月テーマを決めてレクリエーションを行い、楽しみを持ってもらう。	12回/年	M	
顧 客	①	食の楽しみをもつ	食べたいものを考えて作り、食の楽しみをもつ。	聞き取りをして、食べたいものを作る。 12回/年	M	
	②	ケアの統一	介助時の注意点等情報共有し、介助中の事故を防ぐ。	月2名 KYT実施	L	
業 務	①	より良いケアへ	気づける力を身に着け、その部分にどのように対応できるかを話し合っていく。	毎週最低1つ気づきをあげ、月に1度集計し、対策を練る 12回/年	M	
	②	目的意識の統一	目的意識を統一して、決め事が継続できるようにする。	ユニット内での決め事を文章化し、まとめたものを作成	M	
人 材	①	業務の明確化	業務の中にある「無理・無駄・ムラ(3M)」をなくす。	上：現場の課題を見える化し分析、実行計画を立てる 下：実行計画の振り返り	H	
	②					

令和4年度 事業所別事業計画

事業所名

ショートステイいわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) それぞれの生活を大切にし、安心して生活ができる。
(2) ケアや目的意識の統一を行い、チームワークの向上を図る。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	稼働率維持	健康管理に気を付け、状態変化時の早期発見早期対応をする。	体調変化時や急変時の対応方法をシーン別学ぶ 12回/年	M	
	②	リピーターの獲得	利用者や家族の意向に沿った援助が出来る。	アンケート実施 満足度9割以上	M	
顧 客	①	充実した余暇活動	毎月テーマを決めてレクリエーションを行い、楽しみを持ってもらう。	12回/年	M	
	②	紛失や誤混入を減らす	荷物の紛失や誤混入・返し忘れを減らし、信頼関係を崩さないようにする。	① 紛失 0件/月 ② 誤混入・返し忘れ 0件/月	H	
業 務	①	ケアの統一	介助時の注意点等情報共有し、介助中の事故を防ぐ。	月2名 KYT実施	L	
	②	環境整理	居室の環境を自宅と同様に作り、事故や怪我を無くす。	居室環境の写真の更新	L	
人 材	①	目的意識の統一	目的意識を統一して、決め事が継続できるようにする。	ユニット内での決め事を文章化し、まとめたものを作成	M	
	②	業務の明確化	業務の中にある「無理・無駄・ムラ(3M)」をなくす。	上：現場の課題を見える化し分析、実行計画を立てる 下：実行計画の振り返り	H	

令和4年度 事業所別事業計画

事業所名

デイサービスいわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) サービスの在り方を見直し個別化と集団のサービスを確立する
(2) 継続性のある取り組みに向けてコスト面や満足度を評価・計測するためにモニタリングを行う

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業 務 目 標	目 標 項 目	目 標 値	難 易 度	結 果/ 達 成 率
財 務	①	利用者数の安定	居宅向け申し送り方法の新たな方法の確立 (生活相談員)	月別実人数 55人/年平均	M	
	②	ADL 維持加算取得準備	利用者の自立支援・重度化防止	LIFE 活用し該当月の翌月から起算して6か月目ADL利得算出する 各担当制ADL評価	M	
顧 客	①	サービスの質と利用者満足度の向上	個別化と集団レク等の見直しとプログラムの確立	稼働率 82.5%/年平均	M	
	②	利用者と共に食事づくりの継続	食事を楽しみ意欲・認知機能の改善	業者と打ち合わせ(メニュー考案)/毎月1回	M	
業 務	①	利用者、家族からの意見聴取苦情0件	アンケート実施	年1回実施 目的とゴール(30%)を振り返り(30%)家族へフィードバック(40%)	M	
	②	他事業所デイと情報共有	レク内容や業務効率の向上のための意見交換	上半期1回 下半期1回	M	
人 材	①	職員のスキルアップ	オンライン研修へ参加し、知識・技術の向上を図る。	1人あたり2回/年(上期1回、下期1回)	L	

令和4年度 事業所別事業計画

事業所名

訪問介護いわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 専門性を高め利用者・関係機関・地域との信頼関係の構築、サービスの維持・向上を図る。
(2) サービス時以外でも利用者の生活全般を支える助言や提案が出来るヘルパーになる。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	安定した利用者数とサービスの維持	安定した訪問件数維持 空き状況報告 利用全居宅 1回/月	目標 10.5 件/日	H	
	②	自立支援	ADL 評価継続し新たなニーズ・サービス内容の提案	サービス内容変更・追加の提案 4名/半年	M	
顧 客	①	生活援助技術の向上	調理の考案・レシピを増やす	新メニュー考案 年3案/1人	M	
	②	在宅生活の維持・継続	既往歴と観察事項の把握	急変時シートへの記入追加 10名/半年	M	
業 務	①	業務の統一化	手順書の更新・継続した活用	会議での照合 10名/半年	M	
	②	不安なく業務を行える	全職員がいつでも感染症予防対応が出来る	想定シミュレーション実践 4回/年	M	
人 材	①	知識の習得 スキルアップ	担当制による勉強会実施 (月刊誌の活用)	6回/年	M	
	②	サービスの質の向上	専門性を高め先読みした介護が出来る	外部研修(オンライン含) 年2回/1人	L	

令和4年度 事業所別事業計画

事業所名

訪問看護いわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 在宅療養が継続できるように重症化予防とリスク管理に努める。
(2) 地域の関連事業との連絡を密にし選ばれる訪問看護を目指す。

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	利用者（実人数）の定着	・新規利用者獲得 ・居宅や病院との連携を図り顧客獲得を図る	50人/月平均 看護6割 リハビリ4割	H	
	②	医療ニーズの高い利用者の受け入れ	ターミナルや難病等医療依存度の高い利用者の積極的受け入れ	ターミナル対応 10件/年	M	
顧 客	①	多職種連携促進	在宅ケアに関わる多職種間の相互理解を深め、地域包括ケアの推進に寄与する	担当者会議参加 100%	M	
	②	安心したサービスの利用	・感染対策の徹底 ・予防チェックシートの作成	チェックシート 達成率 100%	M	
業 務	①	業務の効率化	・業務を洗い出し無駄を省く ・業務の分業化	・業務の洗い出し ・分担表に沿って3ヶ月/回ローテーション	M	
	②	看護の質の評価	・看護計画の見直し・評価 ・マニュアルの見直し・作成(3か月/回)	・月1回看護計画の見直し ・年4回マニュアルの見直し	M	
人 材	①	スキルアップ 看護技術向上	・研修への参加（3回/年以上） ・最新知識・技術の習得	3回/年以上研修参加	L	
	②	働きやすい環境作り	・スタッフミーティング ・職員間で注意し合える環境を作る	1回/月スタッフミーティング	M	

令和4年度 事業所別事業計画

事業所名

いわせ長寿苑指定居宅介護支援事業所

1. 目 標

- (1) コロナ禍の新しい生活様式での訪問や ICT を活用し感染予防や業務効率をあげ、実績プラン数の維持をしていく
- (2) 安心して在宅での生活を送れる様に、幅広い視点の知識を習得し相談業務を行う

2. 事業計画達成のための業務目標

視 点	番 号	業務目標	目標項目	目標値	難 易 度	結果/達成率
財 務	①	実稼働件数 (最大 105 件) 加算算定	①一人当たり実績件数 35 ②新規利用者獲得 ③特定加算Ⅲの取得	一人あたりの実績数 35 件 全体 105 件	M	
	②	認定調査の実施	月 2 件の認定調査実施 状況に応じて認定調査の件数を増やす	年間 24 件	L	
顧 客	①	①各事業所、利用者、家族からの居宅への苦情 0 件 ②利用者、家族から各事業所への相談要望	①アンケートの実施 ②各事業所への情報提供	①アンケート実施後の意見等 100%回答対応 ②情報提供数 1 回/月	M	
	②	行政、地域包括等との連携	地域ニーズの把握や情報共有するため、地域ケア会議等への参加	地域ケア会議 年 1 回以上	H	
業 務	①	特定事業所加算算定の要件内容の取り組み	①他法人連携 ②定期会議	①年 2 回事例検討 ②概ね週 1 回のケース検討会議	H	
	②	集中減算を踏まえた中立公正な事業所選択	①集中減算の要件を確認しながら事業所選択	①自法人利用率 70%	M	
人 材	①	相談業務スキル向上	在宅での生活を支えるための幅広い視点の知識習得	研修参加 2 回以上	L	